

## 児童発達支援 事業所における自己評価結果（公表）

公表： 2022年 2月 5日

事業所名 こどもサポート教室「きらり」北長野校

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	0	適宜パーティションの位置を変更してスペースを確保したり、振り返りの時間にお子さんたちが活動できるスペースを用意したりして、限られたスペースをうまく使えるよう工夫している。	入れ替わりの時間に室内が混雑してしまうことがある。1月現在、スペースとの関係で利用定員は適切と考えるが、今後さらに利用者数が増えた場合には手狭になることも考えられる。事務スペースや相談スペースの配置変更なども含め、今後の検討課題である。
	②	職員の配置数は適切である	5	0	職員数が増えてきたことで、運営がしやすくなってきた。	今年4月からの月曜開所により、シフト制になることで、3人体制で回していくことが増える。他教室との連携も含め、今後のすすめ方について考えていく機会を3月までに設ける必要がある。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	5	0	日めくりカレンダーを入口付近に設置して日付や天気を意識してもらったり、その日の活動内容を視覚的に示し、その日の流れが本人に分かりやすくなったりするよう工夫している。	教室内は段差がなく、トイレに手すりがないことを除けば問題はない。しかし、入口付近の犬走りの段差を気にしているおさんが、児発を含めて何人かおられる。対策を考えていかなければならない。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	5	0	毎朝、分担を決めて教室内の清掃を行ったり、お子さんに合った高さの机と椅子を用意したりすることで、活動に適した環境になるよう努めている。	下置き場付近が汚れやすいので、こまめに清掃するよう心がけていきたい。冬季間、教室内がなかなか温まらなかったり、雪や雨でぬれたまま来校するおさんもおられたりする。利用者の皆さんが気持ちよく過ごしていただけるような対応をこれからも心掛けていきたい。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	4	1	それぞれのお子さんの支援内容を決めだす際、前担当者の支援の様子を次の担当者が確認しながら計画を立案している。支援後にはその時の様子や課題などを次回の担当者に記録と口頭で伝えることで情報共有をはかっている。	個々のお子さんの支援内容についての情報交換に加え、週の初めに打合せの時間を確保し、前の週の支援について全員で共有しておきたい成果や課題、保護者対応等について確認したり話し合うことで、支援中や振り返りの時間での困りごとについて、解決への道筋を作ることができるようにしている。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4	0	保護者の皆様から頂いたご意見を全員で確認し、今後改善すべき業務内容について話し合い、次の支援に生かしている。	保護者の皆様の意向を果たして私たちが十分に把握できているかどうか、検討しなおさなければならない。お気持ちを伝えやすいような職員や

						教室の雰囲気であるよう、今後も気を配っていきたい。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	3	0	毎年の年末に事業所評価のアンケートを保護者の方へお願いし、その結果を集計して職員全員で検討するとともに、ホームページに掲載している。今年度も同じスケジュールで進めている。	これまでの自己評価で、設備面について何回か提起されてきたが、いまだ解決できていない問題がある。バリアフリー化だ。どこかで予算化して取り組まなければならない。その他のまだ改善できていない内容についても着手していかなければならない。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	0	発達支援研究所による外部評価を受けている。	今後も、いただいたご指摘についてはすぐに改善するよう努めていく。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	0	発達支援研究所主催の研修や事例検討会に参加し、研鑽を積んでいる。外部団体が主催する研究会にも、時間が許す限り参加している。	支援に関する最新の知識を学んだり、他事業所や異業種での成果を取り込んだりするため、今後も研修を積んでいきたい。また、お子さんや保護者の支援に役立つような本を読み、保護者に紹介する活動も継続していきたい。
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	5	0	毎年1月から3月にかけて、すべてのお子さんのアセスメントを行っており、今年も同じ時期に計画している。また、個別支援計画の見直しの機会にお子さんや保護者の方のニーズをつかむよう努めている。	お子さんや保護者の方のニーズや課題、困り感をしっかり把握して分析できているかどうかは心もとなさを感じる。保護者の方のお気持ちを伺う時間を充分とっていないのではないか、という思いがあるためだ。今後の課題とする。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3	1	サポート教室全体で、標準化された同じアセスメントツールを使用している。	北長野校でも、このアセスメントツールを使用して、1月から3月までの間にアセスメントを行う予定。
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	4	1	職員全体で児童発達支援ガイドラインについて話し合う機会は、新しい職員が着任して以降、取っていなかった。	新しい職員にも、このガイドラインについて伝える機会を設けるべきであった。今後、機会を設けていく。支援計画を立案する時には、このガイドラインを念頭に置きながら案を作成している。
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	5	0	計画に沿った内容に加え、保護者の方のご希望やお子さんのその時の困り感に応じて新たな内容も加えながら支援を行っている。	支援計画は、作成後に新しく生じたニーズや困り感を反映していない。お子さんの様子や振り返りの時間にいただいたご意見などを参考にして、支援内容を変えていきたい。
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	3	1	指導員が連絡を取り合いながら活動のプログラムを組んでいる。支援でのお子さんの様子についても共有している。	指導員は和気藹々とした雰囲気の中で、支援内容について積極的にやり取りをしている。今後もこの雰囲気を大切にしていきたい。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	0	指導員は、お子さんの顔を思い浮かべながら教材を探したり作成したりしており、新たに作成し	新しい教材を開発してストックを増やしていくことが、固定化を防ぐための手立ての一つだろう。新しい教具の

				た教材は全員で情報共有している。	選定や購入も積極的に進めていきたい。	
⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	3	2	今年度は、個別支援が中心で、集団活動はほとんど行ってこなかった。支援後に何人かのお子さんが集まって一緒に活動をするにとどまっている。	集団活動について、今後の方向性を検討しているところである。教室としての意見がまとまったところで方針を示していきたい。	
⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4	1	支援内容を計画するにあたり、指導員同士が頻繁に話し合いを行っている。個別支援が中心であるため、役割分担を相談することはなく、分担が必要な場合にはその場で臨機応変に取り組んでいる。	個々での打ち合わせに加え、全体で相談する機会を設けたことで、情報共有が更に行いやすくなった。自由に声を掛け合える時間をこれからも確保することで、支援内容の充実を図ってきたい。	
⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3	2	支援コマが立て込んでいるため、支援終了後には緊急を要することを伝えあう程度で、打合せまでではできないことが多い。	その日のうちに打合せ会ができなくても、翌日の打合せ会や支援準備の時に気づいた点等の共有を行っている。今後もこの方向で進めていきたい。	
⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5	0	支援が終わったところで、指導員がPCに入力している。丁寧に入力しており、次の担当者はそれを読んで質問したり疑問点を確認したりして、支援計画を立てている。	PC入力は今年度から始まった。最初は慣れなかったようだが、慣れてくると紙への記載に比べて短時間で済むようだ。そのため、以前より多くの記録がなされている。通して読むことで、支援の検証と改善に役立てることができるので、今後も定期的に活用していきたい。	
⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	4	1	振り返りの時間での保護者の方からの聞き取りに加え、モニタリングのための時間を作っていたが、意見を伺っている。	モニタリングの時期が遅れがちになっていることを、保護者の皆様にお詫びしなければならない。このようなことがなくなるよう、改善に努めていく。	
関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4	0	外部機関で行われる担当者会議には管理者が出席し、きりで行われる会議には管理者と指導員が出席するのが通例。管理者が最もふさわしい者かどうかは疑問が残る。	担当者会議が午後に行われる場合は、指導員の出席は難しくなるため、指導員の意見を聞いたうえで管理者が発表している。だれが参画すべきかについては、今後の検討課題とする。
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	3	1	管理者が中心となって関係機関と連絡を取り合ってきた。指導員が直接連携する機会はまだなかった。	年に数回行われる関係者会議や管理者が行ってきた連携について、指導員も少しずつ加わるようになっていくことも、今後検討する。
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている			重症心身障害のあるお子さんの支援は行っていない。医療的ケアが必要なお子さんはおられるが、医療的ケアは行っていない。	

	⑳	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている			重症心身障害のあるお子さんの支援は行っていない。医療的ケアが必要なお子さんはおられるが、医療的ケアは行っていない。	
	㉑	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4	0	支援会議や会議時の園訪問の時に、支援内容や今後の支援方針等について情報共有を行い、相互理解を図っている。	今後も連絡を密に取り、支援内容等の情報共有と相互理解を図っていききたい。
	㉒	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4	0	支援会議に参加した時に意見交換を行ったり、学校の職員が支援の見学に来たりしている。	支援会議には積極的に参加し、学校での支援の様子を伺い、教室でも情報共有していくことで、今後も支援の質の向上を図っていききたい。
	㉓	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	1	他の専門機関とは、いつでも連絡が取れるようなつながりを持っている。保護者の方からの相談を受けた時に、関連機関を照会することがある。	他機関の力を借りることがお子さんや保護者の方にとって有益だと思われる場合には、保護者と相談した上で、躊躇うことなく連絡を取るようになっていきたい。いろいろな会に出席することを通して、他の機関との新しい連携体制も構築していきたい。
	㉔	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	2	3	支援会議に合わせて園でのお子さんの様子を見学することはあった。障害のないお子さんとの交流の機会は持っていない。	今後も支援会議に出席して情報交換等を行っていききたい。障害のないお子さんとの交流は、こちらから出かけていくことが難しいため、今のところ実施の予定はない。
	㉕	(自立支援) 協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	2	2	管理者が協議会子ども部会に出席している。今年度は地域の子ども・子育て会議には出席していない。	子ども部会が開催された場合には可能な限り参加していく。今のところ、地域の会議への参加打診はない。要請があった段階で検討する。
	㉖	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5	0	振替の時間に話し合うことに加え、喫緊の課題を抱えている保護者の方には支援時間中に、あるいは別の時間を設定して相談を行っている。	発達の状況や課題について共通理解を持つことに関しては、これだけやれば充分、ということはない。保護者の方と話し合う時間をできるだけ多くとるよう心がけていきたい。
	㉗	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	4	1	特別なプログラムを行っているわけではない。保護者の方にとって関心の高い内容をテーマとした保護者交流会を開催することで、情報提供に努めている。	保護者の方が心配に思っておられることをつかみ、その内容に対する何らかの対策を提案できるよう考えていく。保護者交流会を通しての情報提供は今後も続けていきたい。
保護者への	㉘	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4	1	契約時に丁寧に説明するよう心がけている。	契約時や初めて請求予定額通知書をお渡しするときには丁寧に伝えようとしているものの、その時以降はほとんど説明を行っていない。わかりやすい資料を作成して理解を深めていただくことも考える。



説明責任等	③③	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	4	1	ガイドラインの内容を踏まえたうえで、支援時のお子さんの様子や保護者の方のご要望も取り入れた計画を立てるよう努めている。支援計画の同意は、計画説明時にいただいている。	支援内容を保護者の方に短時間で説明し、同意をいただいていることが多い。もっとしっかり、丁寧に説明すべきだろう。保護者の方と連絡を取り、説明のための時間をより多く取れるようにしていきたい。
	③④	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4	1	指導員は、振り返りの時間に保護者の方の悩みを伺っているが、管理者の行っている相談は、時間がまだ短いのではないかと。また、必要な助言と支援ができていくかどうか心もとない。	必要な助言と支援は、経験がありさえすればできるものではなく、積極的に知識を吸収したり、事例について考えたりすることでできるようになるもの。今後も自己研鑽を継続して行っていきたい。
	③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4	1	保護者交流会を何回か開催し、多くの方にご参加いただいた。保護者の方同士が支えあっておられる様子も見られる。父母の会の支援までは行っていない。	今後も保護者交流会を積極的に行っていきたい。指導員と話をする会、外部講師を招いて特定のテーマについての情報交換を行う会など、保護者の方のご要望も受けながら多様な内容を計画していきたい。
	③⑥	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	5	0	事業所内相談支援の体制を整備した。相談を希望する方のために、相談内容に応じた資料を用意したり、お伝えしたい内容のメモを作成したりすることで、有益な相談時間になるよう心がけた。	いつでも声をかけていただけるような職員であるか、北長野校が声をかけやすい雰囲気になっているのかが問題。こちらからも積極的にお声がけをしていくよう心がけていきたい。
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4	1	週に1回以上、LINE一斉送信を行い、教室からのお知らせや、保護者の方の役に立ちそうな情報を発信してきた。会報の発行は行っていない。	これまでLINE一斉送信は管理者が行ってきたが、月に1回程度、指導員からの発信も始めた。参考になりそうな本の紹介や学校公開の情報などの発信も行っている。今後も内容を充実し、皆さんに喜んで読んでいただけるものにしていきたい。
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	5	0	契約時には、個人情報の扱いについて丁寧に説明するよう心がけている。教室での個人データの保管管理や印刷物での個人情報の扱いなどに気を付けながら業務を行っている。	個人情報保護についても、これで充分ということではなく、気が付かないうちに杜撰な扱いをしているような場合がないとも限らない。問題点がないか、教室外の方のご意見も伺いながら再検討していきたい。
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5	0	配慮を行うよう心がけているものの、十分な配慮ができていないと言いきれないだろう。	この点も、これで充分ということはない。お子さんや保護者の方の一言から私たちの配慮不足に気が付くこともある。これからも利用者の方の声にしっかりと耳を傾けていきたい。
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	4	行事への招待は行っていない。ただ、地域の方と一緒に雪かきをしたり、教室の入っているビルの周りの環境整備をしたりすることを通して、地域の方との連携を深めてきた。	地域の方とのつながりができていたため、保護者交流会を行うときには快く駐車場を貸していただけるなど、いろいろな面で助けていただいている。これからも地域とのつながりを大切に

					する教室であり続けたいと思っている。	
非常時等の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	5	0	左記のマニュアルはすべて準備しており、緊急時や感染症への対応については保護者に印刷物を通して周知している。	防犯マニュアルは、これまで保護者に周知してこなかった。今後、周知方法を検討する。保護者の方に171体験を行っていただいたのは良かった。今後も、非常事態を想定した様々な体験を実施していきたい。
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5	0	毎月、テーマを決めて防災訓練を行っている。今年度は感染対策や非常時の連絡体制など、これまで実施してこなかった内容を取り入れたり、新たな角度から訓練内容を見直して、より焦点化した訓練を行ったりしてきた。	近年、災害の発生が多いため、年間の防災訓練計画も絶えず見直し、改訂していくことが必要になってくる。その時々状況に応じて訓練内容を考えていこうにしたい。
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	3	1	発作への対応が必要かどうかは、契約時に必ず確認している。服薬やお子さんの状況の変化については、支援会議で取得した情報を全職員で共有している。	今後も最新の状況をつかむよう努めていく。
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている			アレルギーの情報は得ているが、支援時に食事を提供していないため、医師の指示書は入手していない。	
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	3	2	ヒヤリハット事例が発生した時には、状況への迅速な対応を行うとともにすぐに保護者や上長に連絡している。事案についての報告書を作成し、上長に提出後は印刷してファイルに保管している。	ヒヤリハット事例が発生した時には、全職員で情報共有している。しかし、これまで発生した事例についての情報共有や、事例が発生した場合の対応については、新しい職員に伝えてこなかった。改善する。
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5	0	長野市や長野県が主催する虐待防止研修に積極的に参加している。全職員が必ず研修を受けられることができるよう、参加の日程を調整してきた。	虐待防止への意識を高めるためには、継続して研修を受けていくことが必要。今後も研修の機会があるときには必ず参加するよう予定を立てていく。問題となりそうな事例が発生した場合には、ためらうことなく指摘あえるような職員の関係であり続けたいと願っている。
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	2	1	身体拘束が必要な場合についての保護者の同意書は作成してある。支援計画への記載に不十分な点があったこと、新しい職員に身体拘束についての説明を十分にしておこなったことは反省点。	これまで幸いにしてこの同意書を使うことがなかった。しかし、どのような場合に身体拘束を行うかについて、職員全員での共通理解は必須。早急に対応する。

## 児童発達支援 保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

公表：2022年 2月 5日

事業所名：こどもサポート教室「きらり」北長野校

保護者等数（児童数）：11 回収数：9 割合：82%

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	①	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	9	0	0	0		お子さんの入れ替わりの時に混んでしまうことがある。感染対策も含め、教室内の環境整備の仕方を更に検討していかなければならない。
	②	職員の配置数や専門性は適切であるか	8	1	0	0		職員数が増えたのは良かった。今後もそれぞれの得意分野を生かしながら支援を行ってきたい。
	③	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	8	1	0	0		指導員はその日のプログラムを視覚的に示すなど、いろいろな工夫している。しかし、それが本当にその子にとってわかりやすいものであるか否かは、今後も絶えず検討していく必要がある。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	9	0	0	0		毎日の清掃は丁寧にを行うよう心がけている。園のお子さん用の机が増えたなど、少しずつだがお子さんに合った環境整備を行ってきた。今後もより良い環境になるよう見直しを続けていきたい。
適切な支援の提供	⑤	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	9	0	0	0		ニーズや課題はその時期によって変わっていくもの。保護者の方のご意見を伺う機会をしっかりとったり、お子さんの様子について職員間や保護者の方と情報交換を密に行ったりすることで、ニーズや課題に合った支援を行うことができるようにしていきたい。
	⑥	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	8	1	0	0		計画の立案に当たっては、ガイドラインを踏まえたうえで、その時点でのお子さんの困り感や課題、保護者の方のニーズを伺い、内容に反映させるよう努めてきた。これからも保護者の方としっかりと話す機

							会やお子さんと触れ合う機会をとるようにしていきたい。
	⑦	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	9	0	0	0	指導員は、支援計画を参考にしながら、それぞれのお子さんの支援の様子について頻りに情報交換を行い、お子さんの理解に努めている。更に研修を積み、質の高い支援ができるよう、今後も努力を続けていく必要がある。
	⑧	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	9	0	0	0	指導員がそれぞれのアイデアを出し合って共有し、教材開発をしている。これからもお子さんたちが楽しく取り組み、且つ力を伸ばせるような教材を開発していきたい。
	⑨	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	1	1	1	6	支援会議や研修等で職員が他の園に出向くことはあっても、きらりを利用するお子さんが他の園と交流するような機会は設けていない。
保護者への説明等	⑩	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	9	0	0	0	契約時にお伝えしているだけで、それ以降は説明の機会を設けてこなかった。特に利用者負担については分かりにくい面があるので、資料を新しく作成しなおし、再度お伝えすることを考えたい。
	⑪	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	8	1	0	0	ガイドラインについてこれまで十分な説明を行う機会を持ってこなかった。今後、説明を行う機会を設けることを考えていきたい。
	⑫	保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）が行われているか	7	0	0	2	支援後の振り返りの時間に加え、保護者交流会という形で保護者支援を行いたいと考えてきた。まだご参加いただけない方もおられるので、曜日や時間を変えながら、少しでも多くの方に交流会に参加していただけるようにしたい。
	⑬	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	9	0	0	0	共通理解ができるよう心がけているものの、十分にできていないとも言えないのが現状だろう。保護者の方の中には、一人で悩みを抱え込んでいるのではないかと思われる方もおられ、そういった方のお気持ちにまだ私たちは近づくことができていない。今後の課題だ。



	⑭	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	8	1	0	0	よくお話をしてくださる方がおられる反面、ご自分からお悩み等をあまり発信なさらない方もおられ、発信の少ない方に対しての助言等ができていないことが考えられる。もっと積極的にお声がけていかなければならない。
	⑮	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	8	0	0	1	放デイのお子さんが多い教室であるため、小学校以上のお子さんをテーマにした交流会が多かった。園のお子さんを対象にした内容の検討を行っていきたい。父母の会の活動への支援は行っていない。
	⑯	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	9	0	0	0	事業所内相談支援の体制を作り、お知らせを行ったところ、ずいぶん多くの方にご利用いただくようになった。日ごろから相談しやすい雰囲気を作ることが大切で、こういった雰囲気ができているかどうかを再検討することが必要だ。
	⑰	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	9	0	0	0	果たして配慮ができているのか、私たちによくわからない。アンケートの結果はありがたいものの、十分な配慮ができていないか、今後も自己評価していくことが必要。
	⑱	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	9	0	0	0	LINE 一斉送信によるお知らせは毎週行っているものの、ブログの更新は滞っている。今後、体制を整えていくことに加え、保護者の方のお役に立つLINE 一斉送信になるよう、内容を考えていきたい。
	⑲	個人情報の取扱いに十分注意されているか	9	0	0	0	外部に発信する文書については十分な注意を払っているものの、教室内の書庫の扉が閉まっていなかった、机にお子さんの名前が書かれた書類が置かれていたなど、改善しなければならない点はまだ多く残されている。
非常時等の	⑳	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	9	0	0	0	マニュアルはすべて整備されている。しかし、コロナをはじめとする感染症対策には、これで充分ということはない。また、職員は訓練を行っていても、保護者の方を巻きこんでの訓練は行ってこなかった。伝

対応							言ダイヤル 171 の利用体験を行い、保護者の方にも体験していただいたのは良かった。今後も様々な内容を計画していきたい。
	②①	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	8	0	0	1	保護者の方には、1 月に伝言ダイヤル 171 の体験をしていただいた。その他にも緊急時の対応の仕方について、保護者の方に使いやすいものがないか、検討していく。職員は毎月防災訓練を実施している。
満足度	②②	子どもは通所を楽しみにしているか	9	0	0	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・習ったことが園や家でも出ていてできることが増えてきている。</li> <li>・いつも活動を楽しみにしている。</li> </ul> <p>このような評価をいただいたことに大変喜んでいる。お子さんにとって苦手な内容も支援の中に入ってくるが、その内容が苦痛な活動として行われるのであれば、そのお子さんの力として定着するのは難しいだろう。今後も楽しく取り組める内容を考えていきたい。</p>
	②③	事業所の支援に満足しているか	9	0	0	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レベルに合ったことを教えてもらえ、楽しく学べている。</li> </ul> <p>この評価も大変ありがたい。大切なことは、今後も満足をしていただけるような支援を続けていくことであり、保護者の方やお子さんからご意見をいただきながら、より良い、質の高い支援を目指していきたい。</p>

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。